京都・市民放射能測定所

会報　第16号

2020年5月6日　開設8周年のつどいを開催しました。
新たな目標に向かって京都測定所はがんばります！

【六ケ所村の核燃料再処理工場が「適合」！？】

5月13日、原発の使用済核燃料からプルトニウムなどを取り出す日本原燃六ケ所再処理工場について、原子力規制委員会は「新規制基準に適合する」としました。この再処理工場の危険性を、当測定所は2回の講演で取り上げています。

再処理工場は、2007年の1年間だけで、日本一トリチウムの放出が多いとされる玄海原発の18年分のトリチウムを放出しています。（2018年5月　開設6周年のつどい講演）しかも、青森県のがん死亡率を全国1位にした元凶と言われています。（2018年12月　第6回測定所まつり講演）

こんな危険な工場を絶対に許すわけにはいきません。

【放射能汚染水も「放出」！？】

さらに、福島第一原発事故で発生した「汚染水」を海洋か大気中に「放出」する動きを国と東電は強めています。4月には福島県内で意見聴取会を開きました。漁業・林業・農業関係者や市民から出されている放出反対の声を押し切る構えです。トリチウムによる健康被害を訴えてきた当測定所としまして、絶対反対です。

6月15日まで資源エネルギー庁がパブリック・コメントを受け付けています。ぜひ反対意見を集中しましょう。

https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=620220008&Mode=0

【帰還困難区域ですら「避難解除」！？】

東京オリンピックは新型コロナウイルスのために「延期」されましたが、原発事故を消し去ろうとする動きは続いています。3月10日には富岡町の「道路の一部」が「避難指示解除」になり、常磐線が「全線再開」になりました。しかし当測定所の測定結果でも明確ですが、放射能が消えたわけでも危険性が無くなったわけでもありません。

【新たな目標へ！】

5月6日に京都測定所開設8周年のつどいをネット（ZOOM）集会として開催し、30数名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。さまざまな困難はありますが、研究者の方たちと共同作業で放射線被ばくによる健康影響を明らかにする取り組みも進めてきました。そして測定活動を継続しデータを蓄積してきました。その成果を市民にわかりやすく広げていくことを新たな目標に、京都・市民放射能測定所は前進していきたいと考えます。よろしくお願いします。

2020年5月19日　京都・市民放射能測定所　事務局長　佐藤和利

【報告】2020年5月6日　開設6周年のつどい

☆講演
『徹底検証！福島甲状腺がんは本当に原発事故と無関係か？』

講師：原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会
宗川吉汪（そうかわ　よしひろ）さん

①小児甲状腺がんの地域差あり

2011 年 3 月 11 日の福島第一原子力発電所事故。それによって放出された放射能の影響で小児甲状腺がんが発生したかを検査したのが福島県「県民健康調査」。その本格検査（二回目検査）の結果をふまえて、福島県立医大・放射線医学県民健康管理センターは、本格検査で見つかった小児甲状腺がんには「地域差」があり、「放射線量」の多さに比例して見つかっていることを認めました。（右図）

（2017 年 11 月 30 日第 8 回福島県「県民健康調査」検討委員会「甲状腺検査評価部会」、2017 年 12 月 25 日第 29 回検討委員会にも提出）。

「県立医大資料」
本格検査の甲状腺がんの発見率

＊　10万人あたり

避難区域	中通り	浜通り	会津地方
53.1人	27.7人	21.5人	14.4人

＊　年間10万人あたり

避難区域	中通り	浜通り	会津地方
21.4人	13.4人	9.9人	7.7人

②放射線の「影響を否定」するために動いた評価部会

ところが、第 13 回「甲状腺検査評価部会」（2019 年 6 月 3 日）は、本格検査の結果について、UNSCEAR の推計甲状腺吸収線量を使用して発見率と線量の相関を調べた結果、「がんは放射線の影響とは関係ない」「地域差はない」という「部会まとめ」を作成し、2019 年 7 月 8 日の第 35 回検討委員会に報告しました。

これは、地域分けを適当に変更すれば「甲状腺がんと放射線被ばくとの間の関係を否定できる」ため、評価部会は UNSCEAR のデータを持ち出して新たな地域分けを行ったにすぎないこと。UNSCEAR の甲状腺被ばく量の推計はそもそも過小評価でありであること。評価部会は、初めに結論ありきで適当な地域分けをして「県立医大資料」を否定したのだと宗川さんは一喝されました。

③真実は隠せない

宗川さんは、本格検査における『細胞診実施率』『甲状腺がん発見率』などを見ても、避難地域が高く会津地域が低いという地域差がはっきり出ており、評価部会の結論の誤りをデータで明確に示されました。

そして、評価部会の当時の部会長だった鈴木元氏が講演（第 2 回放射線医学県民健康管理センター国際シンポジウム　2020 年 2 月 2 日から 3 日開催）で述べたように、彼らの計算では 15 歳以上の年齢では被ばく線量が「高い」ほど甲状腺がんの発見が「少ない」という矛盾した結論が出てしまっていること、甲状腺がんの男女比が1対1（通常は1対6　で女性が高い）でありチェルノブイリと同じ結果になっている説明がつかない矛盾などが示されました。

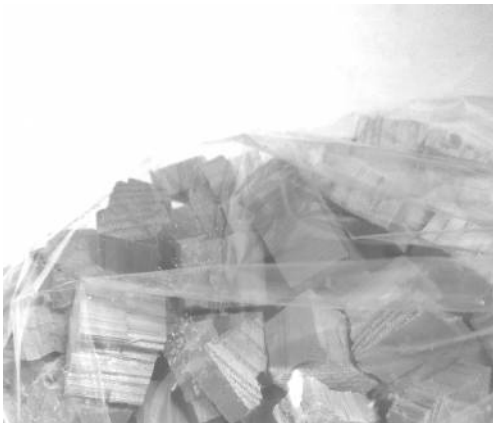
会員総会資料より 『気になる測定結果』

会員総会でもお伝えしましたが、3月7日に測定を依頼された栗木材から、数ベクレル／kgの放射性セシウムが検出されました。

リフォーム用に化学物質対策のために購入された材木です。表面にはウレタン塗装が施されていました。製造者が福島県いわき市のメーカー、木材は東北産という情報だったので、心配されて測定を依頼されました。

右の写真の通り、相談の電話のあとすぐサイコロ状にカットして丹波橋測定室にもってこられました。マリネリ容器に詰めたときどうしても隙間があり、密度が低くなります。データをはっきりさせるために63000秒の長時間測定を行いました。その結果、数値からもスペクトルからも、放射性セシウムの含有が確認できました。

せっかくリフォーム用に購入されたのに結果をお伝えするのは心苦しかったですが、事実は事実としてお伝えしました。（S）



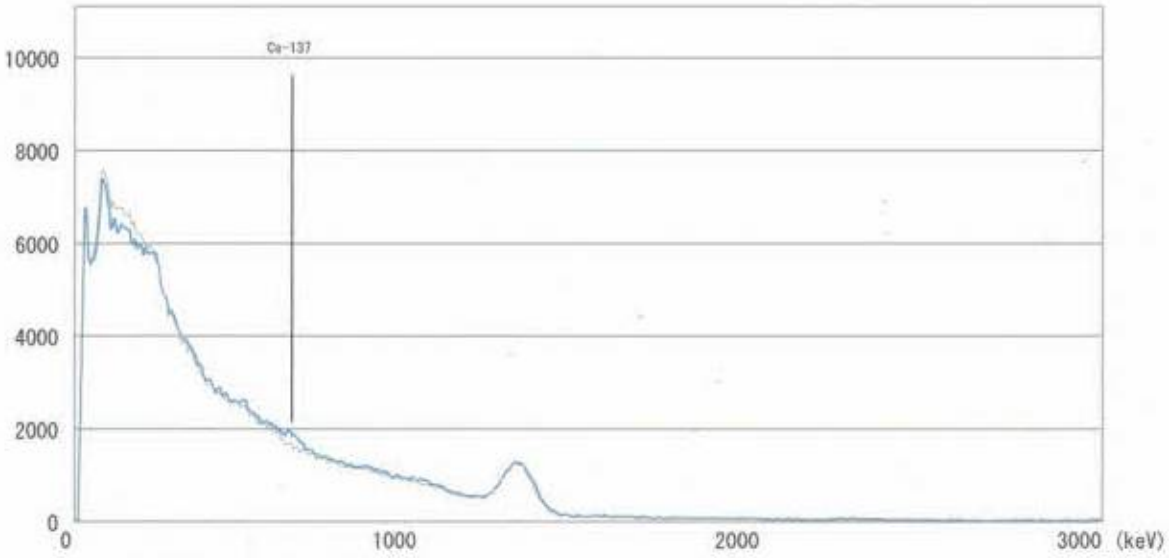
放射能測定結果

印刷日時 ： 2020/03/08 11:13:31

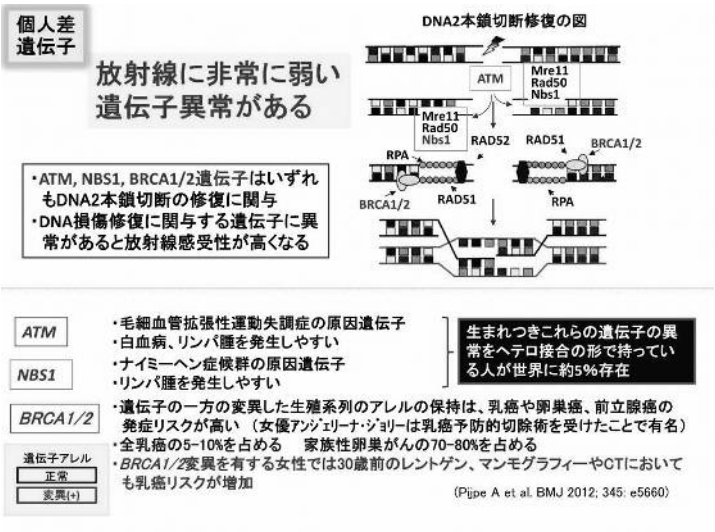
測定場所	丹波橋測定室	測 定 者	佐藤和利
測定番号	T200307-02	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2020年03月07日 15時49分23秒	測定時間	63000 秒
測定容器	Marinelli,1l	試料重量	273 g
分析核種	I+2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	栗木材 表面ウレタン塗装		
ｾｼｳﾑ合計	7.68 ± 2.69 Bq/kg		

判 定	核 種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ﾋﾟｰｸ検出
下限以下	I-131	-	-	-	1.77 Bq/kg	
検出	Cs-137	4.85 Bq/kg	±2.08 Bq/kg	38.1%	2.97 Bq/kg	P
検出	Cs-134	2.83 Bq/kg	±1.70 Bq/kg	59.8%	2.75 Bq/kg	
検出	K-40	53.3 Bq/kg	±23.9 Bq/kg	40.4%	35.1 Bq/kg	

［判定条件］検出（ 検出下限値以上 ）
［ﾋﾟｰｸ検出］ P:ﾋﾟｰｸ検出 M:同一ﾋﾟｰｸに複数核種が存在 ［ﾋﾟｰｸ検出条件］ｻｰﾁﾄﾞﾋﾟｰｸ ﾈｯﾄｶｳﾝﾄ≧1σ



第2号パンフ『被ばくは低線量でも危険』購入のお願い



せっかくつくったパンフですが、新型コロナウイルスのために販売できる場所（集会等）がなく、まだまだ在庫が残っています。

内容的には、放射線被ばくの影響を多面的に明らかにした画期的なものです。郵送販売もしておりますので、ぜひご購入ください。

会員のみなさまへのお願い

京都測定所をいつもご支援いただき、スタッフ一同感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、現状のままでは大変厳しく、みなさまからの会費と測定依頼に頼るしかありません。

会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員　4千円

サポート会員　2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255　京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961　京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名　四四八　店番　448

普通預金　0677096　京都市民測定所

CRMS
市民放射能測定所
KYOTO

京都・市民放射能測定所　事務局
〒612-0066　京都市伏見区桃山羽柴長吉中町 55-1
コーポ桃山 105 号部屋
TEL/FAX　075-622-9870
E-mail：shimin_sokutei@yahoo.co.jp
http://nukecheck.namaste.jp/　http://crmskyoto.exblog.jp/